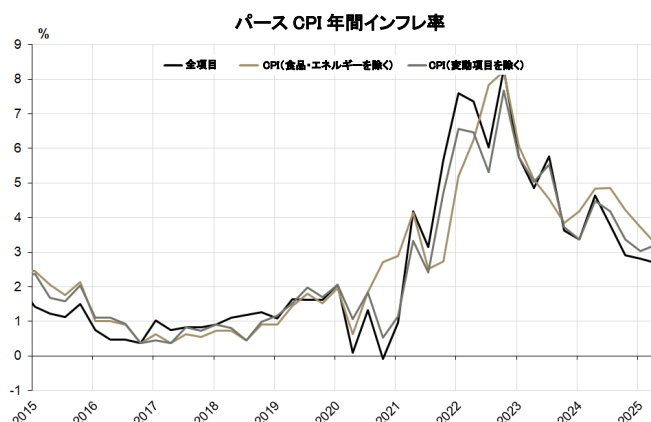
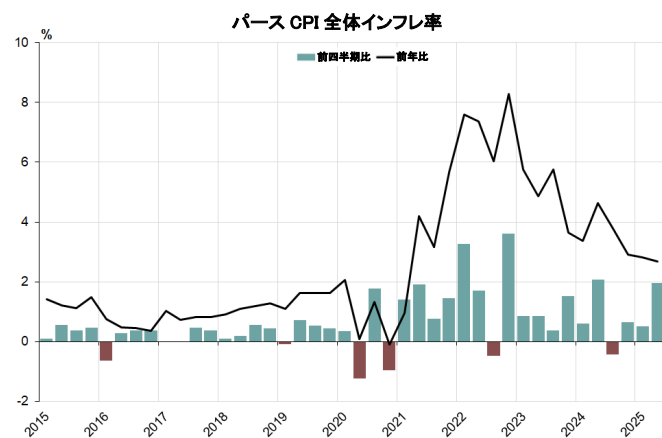


西オーストラリア州関連データハイライト

- RBA 金融政策会合は予想に反して7月も政策金利目標を3.85%に据え置いた。
- パース CPIは第2四半期に1.9%上昇し、通年で2.7%上昇となった。
- 西オーストラリア州の雇用者数は6月までの1年間で2.6%増加した一方、失業率は4.1%だった。
- 西オーストラリア州の小売売上高は6月に0.3%増加し、通年で5.3%増となった。
- Cotality(旧 CoreLogic)のパース住宅価格指数は7月に0.8%上昇し、前年同月比7.0%上昇となった。

2025 年第 2 四半期のパース CPI

- パース CPI は 2025 年第 2 四半期に 1.9% 上昇した。四半期単位の大規模な伸びにもかかわらず、年間消費者物価インフレ率は 0.1 パーcentageポイント減で 2021 年第 1 四半期以来の最低レベルである 2.7% となった。
- 第 2 四半期のパース CPI 上昇の主因となったのが、家計が連邦および州の電力リベートの大半を使い尽くしていたことによる電気代自己負担額の 116.8% 増であった。
- また、医療および病院サービス(+2.5%)、海外休暇旅行・宿泊(+4.7%)、自動車保守・修理(+3.8%)、家賃(+1.6%)の各費用増という前向きな貢献もあった。
- 第 2 四半期のこの伸びを一部相殺したのが、自動車燃料価格の 3.3% 減ならびに保険および金融サービス両費用の 1.7% 減であった。
- この 1 年間のパース CPI の伸びを支えた主因は食品およびノンアルコール飲料価格の 3.0% 増、持ち家所有者による新築住宅購入費用の 5.5% 増、家賃の 7.6% 増、医療および病院サービス費用の 5.6% 増で、これらを相殺した主因が自動車燃料価格の年 8.3% 減であった。
- 電気代自己負担額の増加は 0.2 パーcentageポイント増となった非貿易財年間インフレ率 4.1% に反映されていた一方、貿易財年間インフレ率は 1.2% から 0.2% に緩和した。
- 物品の年間 CPI インフレ率(電気代を含む)は 1.9% を維持した一方、サービスの年間 CPI インフレ率は 2021 年第 4 四半期以来の最低レベルである 3.8% に低下した。
- 食品およびエネルギーを除く年間インフレ率は、その他のコアインフレ指標である変動項目を除く CPI インフレ率と同様に、2025 年第 2 四半期に 2021 年第 4 四半期以来の 3.2% に低下した。
- 全体として、オンオフを繰り返す電力料金救済措置の特性に起因する四半期毎の変動にもかかわらず、パースの消費者物価インフレ率は 2022 年第 4 四半期の 9.2% をピークとして着実に低下している。西オーストラリア州経済は高インフレならびにその後のインフレ緩和および緊縮的金融政策の時期を切り抜けることに成功し、コロナ後の州最終需要は全州最大のペースで回復している。



出典：ABS

オーストラリア金利(%)			為替と株価		
RBA 政策金利目標	3.85	(0 pt)	AUD/USD	0.6425	(↓2.4%)
90 日銀行手形	3.68	(↑8 pt)	AUD/JPY	96.87	(↑2.2%)
連邦政府 3 年国債	3.42	(↑16 pt)			
連邦政府 10 年国債	4.26	(↑10 pt)	ASX200	8743	(↑201 pt)

市場概況

- RBA 金融政策会合は予想に反して 7 月も政策金利目標を 3.85%に据え置いた。しかし、6 月の全国の失業率の上昇および第 2 四半期における CPI インフレ率のさらなる緩和は、RBA が 8 月に利下げに踏み切る可能性は非常に高いことを意味している。
- オーストラリア国債利回りは 7 月に上昇したが、それに先立ち 3 年国債利回りは 6 月末にかけて 2 年ぶりの低レベルに、10 年国債利回りは 4 月以来の最低レベルにそれぞれ低下していた。7 月前半の債券利回り上昇を主導したのは、7 月度 RBA 金融政策会合における政策金利据置きという予想外の決定であった。オーストラリアの雇用者数および CPI に関する予想を下回る発表を受け、利回りは月後半に再度低下したが、6 月末のレベルは上回っていた。
- 豪ドルは 7 月を通じて G10 通貨バスケットで最も強い通貨の 1 つとなり、日本円に対しては 2 月以来の最高レベルに上昇した。豪ドル/米ドルの為替レートは、米トランプ政権による米ドル需要増につながる一連の貿易・投資政策決定を踏まえた 7 月末にかけての米ドル急騰を受け、月次レベルで 2 月以降初めての下落を見せた。
- 7 月のオーストラリア株式市場は 4 カ月連続で上昇し、過去最高値を記録した。金融を除くすべての主要セクターで上昇が見られ、医療、エネルギー、公益事業、情報技術の各セクターは最大の伸びを見せた。

WATC 指標銘柄債券の利回り				
満期	利回り 2025 年 7 月 31 日		AGS スプレッド 2025 年 7 月 31 日	
2026 年 10 月 21 日	3.39	(↑13 pt)	0 pt	(-)
2027 年 10 月 21 日	3.45	(↑12 pt)	+9 pt	(-)
2028 年 7 月 20 日	3.56	(↑11 pt)	+19 pt	(↑1 pt)
2029 年 7 月 24 日	3.72	(↑8 pt)	+25 pt	(↓2 pt)
2030 年 10 月 22 日	3.93	(↑7 pt)	+25 pt	(↓5 pt)
2031 年 10 月 22 日	4.11	(↑6 pt)	+27 pt	(↓6 pt)
2032 年 7 月 21 日	4.27	(↑5 pt)	+37 pt	(↓5 pt)
2033 年 7 月 20 日*	4.43	(↑4 pt)	+41 pt	(↓6 pt)
2034 年 10 月 24 日	4.68	(↑2 pt)	+49 pt	(↓6 pt)
2035 年 10 月 24 日*	4.82	(↑6 pt)	+48 pt	(↓8 pt)
2041 年 7 月 23 日	5.27	(↑8 pt)	+67 pt	(↓6 pt)

* グリーンボンド

